

2026 鉄馬 with TSK

車両規則

1、出場車両

鉄馬 with TSK 合戦の日

鉄フレーム+単気筒～4気筒(以上)エンジンを有するモーターサイクルとする。

- ① アイアン NK4
- ② アイアンモンスター400
- ③ アイアンモンスター750
- ④ アイアンモンスター17
- ⑤ アイアンモンスター18
- ⑥ アイアンスポーツ
- ⑦ アイアン ACS (空冷シングル)
- ⑧ アイアン WCS1 (水冷シングル・大排気量)
- ⑨ アイアン WCS2 (水冷シングル・小排気量)
- ⑩ アイアン ACT17 (空冷ツイン 17 インチ)
- ⑪ アイアン ACT18 (空冷ツイン 18 インチ)
- ⑫ アイアン WCT1 (水冷ツイン・大排気量)
- ⑬ アイアン WCT2 (水冷ツイン・小排気量)
- ⑭ アイアンエキスパート
- ⑮ ネオクラシック 350
- ⑯ ネオクラシック 1000

鉄馬 with TSK 決戦の日

鉄フレーム+4気筒(以上)エンジンを有するモーターサイクルとする。

- ① アイアン NK4
- ② アイアンモンスター400
- ③ アイアンモンスター750
- ④ アイアンモンスター17
- ⑤ アイアンモンスター18
- ⑥ アイアンスポーツ
- ⑦ アイアンエキスパート
- ⑧ ネオクラシック 1000

鉄馬 with TSK 乱戦の日

鉄フレーム+単気筒～2気筒のエンジンを有するモーターサイクルとする。走行会は全クラス。

- ① アイアン ACS (空冷シングル)
- ② アイアン WCS1 (水冷シングル・大排気量)
- ③ アイアン WCS2 (水冷シングル・小排気量)
- ④ アイアン ACT17 (空冷ツイン 17 インチ)
- ⑤ アイアン ACT18 (空冷ツイン 18 インチ)
- ⑥ アイアン WCT1 (水冷ツイン・大排気量)
- ⑦ アイアン WCT2 (水冷ツイン・小排気量)
- ⑧ ネオクラシック 350
- ⑨ 走行会 (全クラス)

2、車両区分

鉄フレームを主要な骨格とするロードスポーツモデル。オフロード車、モタード車は除く。

- **アイアン NK4**

1990～2010 年生産の 4 気筒 400 cc以下の鉄フレーム車両で改造自由。

排気量 UP は自由。ただしクランクケースはオリジナルを維持し、ストローク UP は禁止。他機種エンジンの載せ替えは不可 (同一型式エンジンは可) 。

- **アイアンモンスター400**

70～89 年生産の空冷 4 気筒 400 cc以下の鉄フレーム車両で改造自由。

排気量 UP は自由。ただしクランクケースはオリジナルを維持すること。他機種エンジンの載せ替えは不可 (同一型式エンジンは可) 。

- **アイアンモンスター750**

70～90 年生産の空冷 4 気筒エンジンの鉄フレーム車両で改造自由。

排気量 650～860 ccの車両

クランクケースはオリジナルを維持すること。他機種エンジンの載せ替えは不可 (同一型式エンジンは可) 。

※CB750 (RC42) 、ゼファー750 はこのクラスとする。

- **アイアンモンスター17**

70～89 年生産の鉄フレーム+空冷 4 気筒(以上)エンジンでホイールサイズ 17 インチ以上の車両。

改造自由。

排気量 650 cc以上。

※XJR1200/1300 とゼファー1100 の前後 17 インチ仕様はこのクラスとする。

- **アイアンモンスター18**

70～89 年生産の鉄フレーム+空冷 4 気筒(以上)エンジンでホイールサイズ 18 インチ以上の車両。

改造自由。

排気量は 650 cc以上。

※ゼファー1100 の 18 インチ仕様(含 Rr17 インチ)はこのクラスとする。

- **アイアンスポーツ**

アイアンモンスター以外の国産 4 気筒鉄フレーム車で改造自由。

空冷・油冷・水冷で排気量 600 cc以上。

過給気付モデルは不可。

※ZRX1100/1200、ホーネット 600/900、CB1000 ホーネット、ZR-7、フェザー等はこのクラスとする。

※合戦の日のみ鉄フレーム 3 気筒車 (MV アグスタ・トライアンフ等) の出場を認める。

※オリジナル鉄フレーム車も参加可能。ただしエンジンは鉄馬車両規定に合致する車両のものでなければならない。

- **アイアン ACS (空冷シングル)**

300 cc以上の空冷単気筒エンジンで鉄フレームの車両。

改造自由。

※ACS 車両例 : グース 350、GB350/400/500、SR400/500、SRX400/600

- **アイアン WCS1 (水冷シングル・大排気量)**

400 cc以上の水冷単気筒エンジンで鉄フレームの車両。

改造自由。

※WCS1 車両例 : DUKE690、ヴィットピレン 701

- **アイアン WCS2 (水冷シングル・小排気量)**

300 cc以上 400 cc未満の水冷単気筒エンジンで鉄フレームの車両。

改造自由。

※WCS2 車両例 : DUKE390、RC390、ヴィットピレン 401、SPEED400、SCRAMBLER400X

- **アイアン ACT17 (空冷ツイン 17 インチ)**

300 cc以上の空冷 2 気筒エンジンで鉄フレームの車両。

前後 17 インチホールの車両

改造自由。

- **アイアン ACT18 (空冷ツイン 18 インチ)**

300 cc以上の空冷 2 気筒エンジンで鉄フレームの車両。

前後 17 インチホール以外 (16 インチ・前後どちらかだけ 17 インチを含む) の車両

改造自由。ただしフューエルインジェクション車両の排気量 UP は禁止。

- **アイアン WCT1 (水冷ツイン・大排気量)**

700 cc以上 900 cc未満の水冷 2 気筒エンジンで鉄フレームの車両

改造自由。

- **アイアン WCT2 (水冷ツイン・小排気量)**

300cc 以上 700 cc未満の水冷 2 気筒エンジン車で鉄フレームの車両

改造自由

- **アイアンエキスパート**

鉄フレームであればその他の制限はなし。ただし外観は鉄馬の趣旨に配慮すること。

- **ネオクラシック 350**

ホンダ GB350 とロイヤルエンフィールド 350 のみのクラス

エンジンは STD であること。ただし吸排気系と ECU の変更は可。

その他の改造は自由。

- **ネオクラシック 1000**

Z900RS と CB1000F のツーメイクレース。

エンジンとフレームの基本外観は STD であること。

その他の改造は自由。

※CB1000 ホーネットは出場不可。

※特別車両区分

- ◆ トライアンフの MODERN CLASSICS シリーズ（900 & 1200）は Fr ホイールのサイズによって以下のクラスへの出場を認める。
Fr17 インチ車⇒アイアン ACT17
Fr18 インチ以上車⇒アイアン ACT18
- ◆ 鉄フレーム3気筒車（MV アグスタ・トライアンフ等）は合戦の日のアイアンスポーツクラスへの出場を認める。決戦の日、乱戦の日は出場不可。
- ◆ BSA Gold Star 650 は ACS クラスへの出場を認める。

3、総合仕様

車両は安全のために次の各項目のすべてを満たしていなければならない。

(1) ブレーキ

- ① 車両は前後輪にそれぞれ独立した有効なブレーキを備えていなければならない。
- ② 他車との接触による誤操作を防ぐため、Fr ブレーキレバーガイドの装着を推奨する。

(2) リムおよびホイール

最小リム直径 16 インチ～最大リム直径 19 インチまでとする。

(3) ハンドルバー

- ① ハンドルの端から端まで幅は 450 mm 以上でなければならない。
- ② ハンドルの回転角度は、左右それぞれ 20 度以上なければならない。

(4) ハンドルバーのクリアランス

- ① グリップ部およびレバーとカウリングとのクリアランスは 20 mm 以上あること。
- ② ハンドルを左右いっぱい切ったときライダーの指を挟まないように、ハンドルバーと燃料タンクとのクリアランスは 30 mm 以上あること。

(5) スロットルコントロール

スロットルコントロールは、手を離すと戻る方式でなければならない。

(6) クラッチおよびブレーキレバー

クラッチレバーおよびブレーキレバーの末端は、直径 19 mm 以上の球状で容易に取れたり外れたりするものであってはならない。このボールを平たくすることも認められるが、いかなる場合においてもその端部に丸みを持たせることが必要ある（この平たくした部分の厚みは少なくとも 14 mm 以上とする）。ピボット点からボールの端まで測った場合のコントロールレバーの長さは 200 mm までとする。

(7) フットレストおよびペダル

- ① フットレストは、前後車軸の中心を通過する線の 100 mm 上方より下側に、そして後輪の中心を通過する垂線の前側になるように取り付けられ、どのコントロールペダルも容易に操作できる位置になければならない。
- ② フットレストの先端は安全上半径 8 mm 以上に丸められていなければならない。
- ③ ペダル類の先端は安全上丸められていなければならない。

(8) 排気系

排気ガスは車両の後方に排出されなければならない。排気管の端部は少なくとも 30 mm の長さで、車両センター軸と水平かつ平行に近くなければならない。また排気管は後輪最後端垂線より突き出してはならず、排気が埃を立てるように排出されたり、タイヤやブレーキを汚したり、後続のライダーに迷惑を与えたりしないようにしなければならない。

(9) 排気音量

排気音量は FIM 方式による測定方法で、105db(A)以下とする。レース終了後は 3db/A の許容誤差が認められる。

(10) カウリング

カウリングを使用する場合は次の条件を満たすこと。

- ① タイヤを除く前輪は両側に明瞭に見えなければならない。
- ② カウリングの下端と地面とのクリアランスは 100 mm 以上でなければならない。
- ③ 後方に面しているカウリングのいかなる部分も、その先端を少なくとも半径 3.5 mm の丸状にしなければならない。
- ④ エアfoilまたはスポイラーは、それらがフェアリングまたはシートの不可欠部分である場合に限り取り付けることができる。これらの装置の幅はフェアリングの幅をオーバーしてはならず、またその高さはハンドルの高さをオーバーしてはならない。ふちの尖った部分は少なくとも 8 mm の丸みを持たせなければならない。
- ⑤ 上記の適用を避けるために透明な部質を使用することはできない。
- ⑥ 後輪のリムは後輪の垂直線の後部円周 180 度にわたって明瞭に見えなければならない。
- ⑦ アンダーカウルを取り付けること(最低高さ 50 mm のオイル溜まりを設けること)。固定方法は自由とするが、走行中に脱落の恐れがある場合は NG。

(11) フェンダー

フロントフェンダーは取り付けなければならない。カウリング仕様の場合は取り外し可。

(12) オイルドレンプラグと供給パイプ

すべてのオイルドレンプラグは確実に締め、ボルトは安全のためにワイヤーロックをしなければならない。またオイルフィルターもワイヤーロックしなければならない。

(13) 燃料・オイルフィルターキャップ

燃料・オイルフィルターキャップは、閉じた状態で漏れる恐れがあってはならない。さらに、いかなる場合においても誤って開くことのないように、ワイヤーロックしなければならない。

(14) オイルキャッチタンク

オイルキャッチタンクを取り付けなければならない。なお転倒時に容易に脱落または破損せず、高温にも耐えられる材質のもので、オイルがこぼれないように確実に取り付けなければならない。またスタート時には必ず空にしておかななければならない。

※ノーマルエアクリーナーボックスを取り付けている(完全なクローズドブリーザーシステム)場合は、上記オイルキャッチタンクを省略できる。

※クランクケースブリーザーパイプは必ずオイルキャッチタンクに接続されていなければならない。(大気開放は NG)

(15) 燃料タンク

燃料は車両にしっかりと固定されたタンク内に収めるものとする。

(16) ガソリンと冷却水

- ① すべての車両には無鉛ガソリンが使用されなければならない。レースガソリン、AV ガス(航空機用燃料)などの使用は禁止される。
- ② 水冷エンジン車の冷却水は、水または市販のレース用冷却水でなければならない。不凍液が含まれる冷却水は使用出来ない。

(17) シリンダー

シリンダーのキャスト(鋳造)を変更することなくボアを拡大することができる。ただし、この拡大が当該車両本来の出場を認められるクラスの排気量の限度を超えないことを条件とする。

(18) 取り外さなければならないもの

荷台、公道用ナンバープレート、ライト、バックミラー、スタンド等、その他走行にあたり危険と思われるもの。キックアームは飛び出し防止の措置を行うこと。

(19) 取り付けなければならないもの

- ① ゼッケンプレートおよびゼッケン
前面に 1 枚、左右側面に 1 枚ずつ取り付けること。ゼッケンプレートおよびゼッケンの色は指定しないが、カッコよく表示すること。
- ② スプロケットガード
スプロケットに身体一部が巻き込まれないようにスプロケットガードを装着しなければならない。
- ③ アンダーカウル
最低高さ 50 mm のオイル溜まりを設けること。固定方法は自由とするが、走行中に脱落の恐れがある場合は NG。
- ④ 以下の部品には必ずワイヤーロックまたは割ピン等のゆるみ止めをすること。
 - エンジンおよびミッションのドレインボルト
 - オイルフィルターキャップ
 - オイルレベルゲージ
 - オイルエレメントおよび取り付けボルト・ナット

(20) 車両の傾斜角

車両の傾斜角度は無負荷でタイヤを除きどの部分も接地することなく、垂線に対して 50 度以上傾斜させることが可能でなければならない。

(21) 部品の最後端

いかなる部品も後輪最後端垂線より後に突き出ているはならない。

(22) 使用禁止部品

- ① すべての過給装置の使用
- ② オフロード、モトクロス、トライアルタイヤの使用

(23) タイヤ

- ① 全クラス、レース専用(行動走行不可)タイヤの使用は認めない。レインタイヤの使用は可能。
- ② タイヤウォーマーの使用は可能。ただし電源は各自の発電機を使用すること。

(24) 車載カメラ

車載カメラを取り付ける場合はワイヤーロックなどで脱落防止の処置を施すこと。ヘルメットなど車体以外への取り付けは禁止。

(25) 危険防止

- ① 危険および迷惑を及ぼすような改造をしてはならない。
- ② 公式車検において危険と判定された車両は出走できない。

※ 赤文字表記部分は前年度からの変更点を表す。